

■（１１８）苦い思い出の多い「開花宣言」の写真取材

各地で桜が開花している。例年よりかなり早い。気象台の開花宣言を受けて、テレビの情報番組のスタッフも早朝から桜の名所に向かうものの、取材の目当てである花見の場所取りの人たちはまだまばら……。いかに花見客の受け入れ準備がてんやわんやか、との番組が続く。

新米記者時代から、桜には悩まされた。開花が発表されると、写真撮影を命じられるものの、気象台の基準木で花がいくつか咲いたという状態で、被写体としてはさびしい。おまけに、地方では平日の昼間に被写体となってくれる人が近くにいない。通りがかりの人らに協力をお願いすることになる。この依頼が一苦労。定番の構図は、脚立に登って、高い位置から花を見下ろすようにし、見上げる人の表情を背景に織り込むもの。焦点は花びらか、見上げる人の瞳か。何がニュースか考えれば分かるはずだが、緊張からつい花がピンぼけに……。翌日に撮り直すという訳にはいかないので、ミスの挽回は１年後しかない。

東日本大震災の被災地・岩手県陸前高田市で津波の到達点に桜の苗木を植える運動が続く。１７０kmに１７３００本の構想。毎春に現れる桃色のラインが記憶の風化を防ぐ。（山）